

第63回関東同窓会総会に出席

上原 昇 (2組)

今年も関東同窓会総会の季節となりました。

6月29日(土) 昼から、如水会館(千代田区一ツ橋)には同窓生が約170名(53期から97期) 参集して、賑やかに総会・懇親会が行われました。

コロナの規制も無くなって、従来通りの形になっての開催は嬉しい限りです。

今回の実行委員は76期を中心に81期、86期の皆さんです。

我々65期が実行委員長(宮原豊君が委員長)を務めた第51回総会が行われたのが平成24年(2012年)のことですから、当時から10年以上が経っています。あの時は294名の参加者を集め、如水会館のパーティ会場に人が溢れてしまいました。

今回、同期で出席は原田義則君(3組)、丸山暢久君(4組)と筆者の役員経験者3名で、65期としては一時期の勢いは無くなってちょっと寂しい状態です。

世代を超えた同窓生の年に一度の集まりですから、同期の皆さんも気軽に参加してもらいたいものです。

第1部講演会は、小山堅さん(76期、財日本エネルギー経済研究所専務理事・首席研究員)による「激動の内外エネルギー情勢をどう見るか」は、当代エネルギー問題の第一人者による、時宜に合ったテーマとなりました。(詳細は関東同窓会HPに掲載されると思います) 総会では来賓を代表して、同窓会理事長の金子元昭さん(68期)から挨拶がありました。関東同窓会の矢島基美会長(72期)の挨拶では、会員の勤務先の定年延長などの動きの中で、同窓会役員の年齢が高齢化している。今後、若手会員の声をどう反映していくかが大きな課題だという話がありました。

続く、第3部のアトラクションは同窓の噺家、立川談慶師匠(82期)による落語会です。前座で太神楽曲芸の鏡味正二郎さんが寄席芸能を披露した後、談慶師匠が同窓会4年ぶりの登場です。当日受けた大谷翔平のギャグを紹介します。あるTV番組で司会者が張本勲に「大谷は日本人の物差しでは測れないですね」と振ると、張本は「彼はメジャーですから」と答えたとのこと。枕で大いに笑わせた後、先日、俳優デビューした映画「碁盤斬り」の原作となる落語「柳田格之進」の一席、大いに場を盛り上げてくれました。

第4部のお楽しみ懇親会は、学校長の宮下美和先生(84期)のスピーチ、関西同窓会会長荻原靖さん(74期)の乾杯発声で始まりました。同窓生の経営する酒蔵、ワイン醸造、クラフトビールなどがテーブルに並び、従来の酒盛りとは変わった雰囲気の中、卒期ごとの卓を囲んでの立食パーティは大変な盛り上がりで十分楽しむことが出来ました。

【原田追記】

立川談慶師匠が俳優デビューした映画「碁盤斬り」(<https://gobangiri-movie.com>)には日本棋院関係者も協力していて棋譜作り・所作指導のほか、驚くことに現役トップの二人、井山裕太王座、藤沢里菜女流本因坊も出演しています。



写真は上から、小山堅さん、立川談慶師匠、懇親会風景（小山勇副幹事長（92期）提供）

以上